

大川陽一議会報告

発行所
大川よういち後援会
〒373-0057 太田市本町47-15
TEL 0276-22-2966
FAX 0276-60-4047
http://www.okawayoichi.net
E-mail: youiti@bb.mbn.or.jp



買物難民の現状と対策について
○買物難民の定義について
自動車の普及により郊外に大型店が進出し、商店や商店街が衰退し、日々の買い物に困っている高齢者が全国に600万人いる。
○高齢者のひとり暮らしの状況について
平成21年現在65才以上のひとり暮らしの高齢者は400人で、太田地区が1位次いで、九合、鳥之郷地区の比率が高くなっています。
○おなががい市バスについて
目的別の利用状況は医療機関が約84%、買物が約14%、最寄駅が2%です。

六月議会 一般質問

地域の課題は地域で解決しようとする先進的な取り組みで近隣住民との会話や交流が図られるなど、地域コミュニティの活性化に成果を上げています。
市長 八幡町の事例は自ら始めたもので素晴らしい事だと思えます。農協などと連携してセーフティネットをたくさん張って市民の困った



○八幡町の野菜朝市の取り組みについて
八幡南地区の地域の皆さんを中心に1%まちづくり事業として実施し、町内会役員と区民で運営しています。
1回平均108名の来店者があり、地元で収穫した新鮮な野菜のほか、種類や魚類を販売しています。

ことに対応して行くことが必要だと思います。
【その他の質問】
㈱太田国際貨物ターミナルの新ターミナル建設について
(大川陽一・六月五日のブログより)
今日も6時50分の開店前から混雑し、朝一番にピークを迎えるそうです。到着したときは少し落ち着いて来る時間帯のようでした。今日の買い物はキュウリ4本入り1袋100円、玉ねぎ中4個入り1袋100円、マグロ刺身1皿300円です。私の定番であるのり餅の揚げ煎餅は完売でした。今日初めて買ったのはおかひじき1袋100円。食べ方は豆腐と卵のシブリン油だけでシンプルに！また、おひたしも美味しそうです。チャレンジしてみようかね！
先週は全市クリン作戦でした、わが町内は8時まで頑張り、朝市には間に合いません。なぜ来なかったのか？身体が不調か心配して席しているとなぜか心

配になるらしい。地域の皆さんから心配までしていただき、本当にありがたうございまして。来週も早く起きて朝市で買い物しなくてはと思っています。

富岡市の「買い物難民を救う自主経営スーパー、生産者が自分で野菜などを持ち込む直売所方式の店」おかつて市場」を視察しました。午前中だった為か生産

者の搬入ラッシュだ。野菜やパン、手作り弁当、菓子まで搬入して来ます。オーナーはアイテムがまだまだ少ないかな、と。でも生花や乳製品もあり。冷蔵ショーケースも商品でいっぱい。予想通り、来店客の多くは近頃の高齢者ばかりです。早速インタビュアして見た。家の近くにお店



「おかつて市場」を視察(富岡市)
富岡市の「買い物難民を救う自主経営スーパー、生産者が自分で野菜などを持ち込む直売所方式の店」おかつて市場」を視察しました。午前中だった為か生産

今年夏は暑い「太田夏まつり」グッジョブ汗・汗！
国際教養大学は「英語を学ぶ大学」ではなく「英語で学ぶ大学」だ。在学中はすべての授業が英語で行われるため、入学後はまず英語集中プログラムで英語運用能力を徹底的に磨く。英語漬けの毎日。といっても過言ではない。就職先も上場企業をはじめ引く手は数多だ。

「工場」を店舗にしたため、空き店舗対策資金が利用できなくなったのは痛いですが、撤退後の店舗なら補助金制度が利用出来たようだが残念ながらすべて自己費のようです。でも毎日140人から150人の来店客数なので、ますます暑くしょうかね。これからは頑張って下さい。

「おかつて市場」の店内
偏差値も高い。秋田県内では秋田大学医学部に次ぐ2番目だ。中嶋嶺雄学長は元外語大の学長だった方だ。群馬国際アカデミーのイメージ教育は全国的に有名で学長にとっては気になるところだ。GKAも今後、高校など課題と夢がある。

英語は週に1回100分ではなく、毎日20分続ける方が慣れると思う。「習うより慣れろ」である。小・中学校の英語教育が心配だ。イマージョン教育が一番だが、日本人の熟練した英語教師に私は期待をした。

一方、楽天の三木谷浩史社長は社内の公用語を英語に切り替えると言った。世界企業に脱皮するには英語が必要と判断したらしい。
世界で事業を成功させるには、スタッフレベルの英語のコミュニケーションが重要になってくる。海外の優秀な人材を得るためにも必要という。日産自動車社内の経営会議など、ユニークな英語を社内公用語化する方針だ。

編集後記
国際教養大学は「英語を学ぶ大学」ではなく「英語で学ぶ大学」だ。在学中はすべての授業が英語で行われるため、入学後はまず英語集中プログラムで英語運用能力を徹底的に磨く。英語漬けの毎日。といっても過言ではない。就職先も上場企業をはじめ引く手は数多だ。

地デジ・視聴者難民が 出めよう十分な促進策を！

完全デジタル移行まで1年余りとなった。地上デジタル放送への対応を促そうということから、番組映像を横長にし、上下に黒い帯が入った「レターボックス」画面へとアナログ放送が移行した。

映像が表示されない部分には黒い帯が入り、デジタル化への対応を呼びかけるテロップや問い合わせ先の電話番号が表示される。テレビを買換えてもデジタル放送を見ることができない人もいます。地デジに対応していない集合住宅や、地デジの電波が届いていない地域に住んでいる人達だ。また現在、UHFでの電波を受信できない地域。建物や地形的な関係で電波障害のある難視聴地域では地デジを受信できないかも知れないという不安がある。太田市でも難視聴地域が各所に点在している。



公共の建造物やマンションなどでは対策が取られているようだが、全てではない。受信できない視聴者難民を出さない施策にも全力で取り組んでほしい。国の事業(総務省)であるが、自治体の協力を得ながらきめ細かい対応をして欲しい。

「子ども・子育て新システム」とは！

市議会教育福祉常任委員会委員と太田市保育園連絡協議会42園の代表が初めて懇談会を開催した。2013年実施予定、国の「子ども・子育て新システム」も話題になった。



この改革案で児童福祉法が改正されると、市町村には保育実施義務がなくなる。こりゃ大変な問題だぞ！まず、保育園との直接契約になり、相当の混雑が予想される。「自然の素材を使った手作り給食」なんていう給食を出すところは、それなりの値段になるはず。また、課外の習い事なども取り入れる園が出てくるかも知れない。全てオプションで、園ごとにより「格差」が出てくる可能性もある。利用者(保護者)は市との契約でなく、事業所(保育園)と直接契約することになる。料金は柔軟な制度に検討と言っている、事業所は営利を追求することになる。一番心配なのは保育格差が広がり、保護者の負担が大きくなることだ。少子化対策に逆行するような施策である。このような状況で子どもを産み育てようとする気持ちになるだろうか？

議会改革「議会基本条例」 全国第1位の京丹後市議会に学ぶ！

京丹後市議会の議会基本条例は「月刊日経グローバル誌」で全国第1位である。常任委員会で議員間の自由討論。議会放映、インターネットによるライブ中継。陳情・請願の柔軟な取り扱い。議会の透明性など細かく条例化されている。理念だけでなく、実効性のある基本条例である。

市民に開かれた議会の裏側にあるものは議員の資質向上である。京丹後市議会池田議長は体験談を聞いていると片手間でとてもできない。市民のための市議会と簡単に言うが、その責任の重さを改めて感じさせる、すばらしい研修だった。度々の特急の乗り継ぎでこちらからは大変不便なところだが行っただけのことはあった。

議会改革の原点は議会基本条例。目指すものは市民の声を聞く事だと思ふ。彼らは基本条例を制定、施行してから2年が経過した。この間の総括をし、議会活性化委員会を9月に立ち上げる予定だ。

本市では、第1期まちづくり市民会議において「議会基本条例」の制定が提言された。第2期で委員が交代し、第1期の結論を検証する事になっていると思う。本来議会側が自ら「議会基本条例」について研究するのが筋だと思う。本議会も一気に議会改革を進める事が求められるが、出来るところから進めていくのも方法論の一つだ。「議会基本条例」制定に向けて行動して行きたい。



子宮頸がんは「予防できる」がん！ ワクチンと検診の重要性を知ろう！

子宮頸がんは原因やがんになる過程がほぼ解明されている。予防ができるがん。また、定期的に検診を受けることで、がんになる前に発見し、子宮を失わずに治療することが可能だ。近年では20代後半から30代に急増、若い女性の発症率が増加傾向にある。

子宮頸がんは、女性特有のがんの中では乳がんに次いで第2位を占めており、特に20代から30代の女性においては、発症するすべてのがんの中で第1位となっている。全世界で毎年、27万人もの女性が子宮頸がんによって大切な命を失っている。約2分間に1人の割合。日本でも、毎年15,000人(上皮内がんを含む)が子宮頸がんと診断されている。

予防ワクチンは、感染を防ぐために半年の間に3回のワクチン接種で、発がん性HPVの感染から長期にわたってからだを守ることが可能だ。完全に防ぐためには、子宮頸がんワクチンの接種だけでなく、定期的に子宮頸がん検診を受けて前がん病変のうちに見つけることが大切。ワクチン接種後も、20才以上の方は年に1回くらいは検診を受けるようにしましょう。

子宮頸がんの予防接種と検診の重要性を訴えて来た三原じゅん子参議院議員はみずから2年前に子宮頸がんのサバイバーになった。「守ってあげたい、いのちを懸けて」...と、子宮頸がんの予防ワクチンと検診の無料化。がん患者・サバイバーの就労支援など全ての女性を子宮頸がんから救うことこそ、本当の意味の少子化対策だと訴えていた。これからも頑張ってください。

